

「豊島区特別支援教育推進計画」の策定に向けた検討委員会の実施状況について

1 「豊島区特別支援教育推進計画」を策定する背景

時代の変化を踏まえた特別支援教育の計画的な推進を図るために、豊島区教育ビジョン2019-豊島区教育振興計画(第Ⅱ期)-では、「基本方針5 一人一人を大切に教育の推進」を掲げ、基本施策として特別支援教育の充実を位置付けた。

一方、東京都教育委員会が、平成28年1月に東京都発達障害教育推進計画、平成29年2月には、東京都特別支援教育推進計画(第二期)・第一次実施計画を策定し、本区は、この計画に基づき、平成28年4月より特別支援教室を区立小学校全校に、令和元年4月より区立中学校全校に設置した。さらに、平成29年4月には、自閉症・情緒障害固定学級1校を区立小学校に設置し、個々の児童生徒実態に応じて環境を整えつつ、適切な指導及び支援を行っている。

また、「就学支援シート」・「学校生活支援シート」・「個別指導計画」の作成・活用することにより、日常から落ち着いて学習に取り組む幼児・児童・生徒が増加し、学校はもとより、保護者や地域住民から、豊島区における一層の特別支援教育の充実への期待が高まっている。

これまでの成果に加えて、インクルーシブ教育システムに関する国の動向や障害者差別解消法の施行、また学習指導要領の改訂など、特別支援教育を取り巻く環境が大きく変化してきていることから、令和3年度、「豊島区特別支援教育検討委員会」を設置し、特別支援教育に携わる教員の専門性と全教員の特別支援教育に関する指導力の向上や義務教育修了後も見通した継続的な支援の検討、学校におけるインクルーシブ教育システムの構築の実践研究等を行いながら、本区の特別支援教育の指針となる「豊島区特別支援教育推進計画」を策定し、豊島区の特別支援教育のさらなる改善及び充実を図ることとした。

2 「豊島区特別支援教育検討委員会」における主な検討内容

時期	回	主な検討内容
5月	第1回	「豊島区特別支援教育推進計画」の策定に向けて
7月	第2回	豊島区立学校におけるインクルーシブな教育について
8月	第3回	教育センターにおける相談事業及び支援体制について
10月	第4回	要小学校におけるインクルージョンに関する実践的研究事業について
12月	第5回	「豊島区特別支援教育推進計画素案」について
3月	第6回	パブコメ結果報告、「豊島区特別支援教育推進計画」策定について

3 委員一覧

区分	役職	氏名	職名等
学識経験者	委員長	中西 郁	十文字学園女子大学教育人文学部 教授
医療	委員	大島 早希子	板橋区役所前こどもクリニック 院長
心理	委員	黒田 美保	帝京大学文学部 教授
学校関係者	委員	小林 幾子	豊島区立池袋幼稚園長(幼稚園長会)
	委員	北澤 弘幸	豊島区立要小学校長(小学校校長会)
	委員	平本 浩実	豊島区立巣鴨北中学校長(中学校校長会)
	委員	鎌田 英美	都立王子特別支援学校 特別支援教育コーディネーター
保護者代表	委員	笹谷 豊	豊島区立小学校 PTA 代表
	委員	御代 恒	豊島区立中学校 PTA 代表
教育委員会	委員	兒玉 辰哉	豊島区教育委員会教育部長

4 委員会の実施状況

(1) 第1回

日時：令和3年5月18日（火）午後3時30分～午後4時45分

場所：豊島区役所 教育委員会室

内容：○豊島区特別支援教育推進委員会における協議事項を確認

○協議－「豊島区特別支援教育推進計画」の策定に向けて

【事務局】

●豊島区教育ビジョン2019には、誰もが互いに尊重し、支え合い、多様なあり方を認め合える共生社会を実現させることが明記されている。また、令和2年度より東京都教育委員会から「学校におけるインクルージョンに関する実践的研究事業」の指定自治体として、委託を受け、要小学校を中心として、インクルーシブ教育システムに関する研究を進めているところである。本委員会を設置し、関係各課とも連携しながら、義務教育修了後も見通した継続的な支援の在り方、特別支援教育に携わる教員の専門性や指導力を向上させるシステムづくりなどの検討を行い、本区の特別支援教育の指針となる「豊島区特別支援教育推進計画」を策定し、本区の特別支援教育の改善及び充実に図りたい。

【委員のご意見】

- 就学前から社会の中で活躍をしていけるようにというような願いを込めて、それぞれの成長の時間軸をとらえながら、発達の段階に応じて、一つ一つの支援が継続性を保てるような推進計画を策定したい。
- 本計画の充実が、将来のインクルーシブ教育につながっていくという視点で、どの教育の場であっても決して垣根を作らず、子供たちの支援をして行けるような計画を策定したい。

(2) 第2回

日時：令和3年7月13日（火）午後3時45分～午後4時45分

場所：豊島区立南池袋小学校

内容：○協議－「豊島区立学校におけるインクルーシブな教育について」

【事務局】

●豊島区の現状として、副籍交流件数の推移を見ると年々交流件数は増加している。豊島区の小・中学校において、都立特別支援学校との交流は日常化しており、「交流及び共同学習」の必要性や有効性は区内に浸透してきている。しかしながら、単発的な交流ではなく、通常学級の学校生活の中で「交流及び共同学習」を実施していくことが重要である。そのために、通常学級における「交流及び共同学習」に対する期待は何か、どのような意義をもたせることが必要かということについて、推進計画に明記することで豊島区としての「交流及び共同学習」の活発化につながるのではないかと考えている。

【委員の意見】

- 豊島区が進めていこうとする垣根なく、オール豊島で全ての子どもたちを指導していこう、育てていこう、そして取りこぼすことのない教育を実現していこうという、そのための方策としての「交流及び共同学習」が活かされると思う。
- 保護者として受け止めてもらうことが、「交流及び共同学習」を進めていく一番の要となる。保護者からバックアップを受けていけるような実現の仕方、進め方が大切だと考える。

(3) 第3回

日時：令和3年8月6日（金）午後3時45分～午後4時45分

場所：豊島区役所会議室

内容：○協議－「相談事業及び支援体制の充実について」

【事務局】

●来所相談の「延べ相談件数」は、令和2年度は、6296件、令和元年度比で約18%減となっている。来所相談における「主訴別相談件数」を見ると、「子供の発達や障害にかかわる相談」が、どの年度も全体の3割以上を占めている。電話相談は、「発達・障害」に関する相談が全体に占める割合は2割前後である。これらの相談から就学につながった例も多い。

「就学相談」では、発達や成長に心配事がある子供について、現在の様子や発達検査等を基に、保護者に就学先や教育環境等を提案している。なお、子供の就学先の提案については、医師、大学の先生、心理士、特別支援学校の先生、保育園・幼稚園の園長先生、区内小・中学校の校長先生や先生方などを委員とした就学相談委員会で検討している。就学相談の件数は、令和2年度は350件で、令和元年度の386件と比べると約10%減少した。ただし、コロナの影響により2か月間稼働していなかったことを踏まえると、一当たりの相談件数は増加している。

【委員の意見】

- 子供たちの状況に応じ、ふさわしい学びの場を選択できることが一番求められるところだと思う。それぞれの学びの場に特色があり、それぞれがつながりと連続性を持った役割をもちつつ、教育課程を含めて特色があり、発達や障害に応じた学びの場になっていかなければならないと思う。
- 教育相談、就学相談について、保護者との合意形成が難しいケースは、入学後1年間のフォロー体制があったり、幼稚園から小学校へのつながりに関しても、SCがつなぎ役になっている話を聞き、豊島区では、充実した取組が先進的にされていると感じた。

(4) 第4回

日時：令和3年10月25日（月）午前10時～午前11時

場所：豊島区立要小学校

内容：○要小学校における交流及び共同学習の実践について

○協議－「豊島区特別支援教育推進計画（案）について」

【北澤委員】

●要小学校では、「交流及び共同学習」として、2年生が国語「夏がいっぱい」の授業で行い、10月には研究授業を行った。夏から秋、そして3学期には冬についての学習を実践していく予定である。3年生は7月に社会「ものを売るしごと」で、通常学級の児童と特別支援学級の児童が同じグループを作って学習を進めた。9月には理科「音をつたえよう」でも共に学ぶ機会を作り、着実に教科指導における交流及び共同学習を進めている。

●インクルーシブな教育についての教員の理解は深まっているが、学校評価等における通常学級の保護者のインクルーシブな教育に対する肯定的な回答は約6割にとどまっている。今後の啓発が必要だと感じている。

【委員のご意見】

○心のバリアフリーにどう取り組んでいくかというときに一番感じたのは、子供たちにバリアフリーの意識を育てるのではなく、子供の心の中には根本的にバリアは無いことを踏まえることが大切ではないか。バリアを作るのは実は大人かもしれない。授業を参観した際も、本当に子供たちにはバリアは無いと感じたので、そのバリアの無い状態をどう継続していくかが大事な視点だと感じている。

○就学支援シートを活用してほしいと思っている。しかし保護者は、あの四角い枠の中にどのように何を書きこんでいったらいいのか分からず、不安をたくさん抱えている方が多い。配慮が必要な子供がいる方、そうでない方も共通して、初めて小学校へ入学させる保護者の不安を和らげるための改善が、必要であると思う。

(5) 第5回

日時：令和3年12月21日（火）午前10時30分～午前11時30分

場所：豊島区立教育センター 研修室

内容：○協議－「豊島区特別支援教育推進計画（案）について」

【事務局】

- 豊島区特別支援教育推進計画素案はその後、パブリックコメントを実施して、広く区民の意見を聴取し、最終的に教育委員会で決定する運びである。
- 前回までの案に記載してあった「地域の相談機関等」については、豊島区社会福祉協議会に所属するNPOと表記を改めた。また、医療児ケアについては、法律の成立を受け、支援の充実を推進計画に加筆した。
- 本計画のパブコメに向けて、計画の「分かりやすい版」を作成した。概要を一枚にしたものとなっており、豊島区の子供たちにも意見を聞きたいと考えている。

【委員のご意見】

- 分かりやすく、コンパクトにまとまっている。障害の有無に関わらず、先生方がユニバーサルデザインの視点をもって授業づくりに取り組まれることが重要だと思う。
- 就学支援シートを活用してほしい。幼稚園・保育園から小学校へ、そして小学校から中学校へと指導の記録が受け継がれていくことが大切ではないか。
- 誰一人取り残さない意味をどのように受け止めていくのか。一人一人を大切にするという言葉は実は先生たちにとって、重要な意味になっている。特別支援学校センター的機能を活用しながら、指導できる先生たちを増やすことも必要である。
- 素晴らしい内容なので、是非多くの区民の方々の意見を反映できるように、パブコメについてアナウンスしてほしい。

5 今後について

(1) パブリックコメントの実施について

- 実施期間：令和4年1月18日（火）～令和4年2月18日（金）まで
- 閲覧場所：指導課、教育センター、行政情報コーナー、区ホームページ
- 結果公表：令和4年3月21日（月）※区パブコメページに、意見反映後に決定したものを掲載

(2) パブリックコメント関連の会議スケジュールについて

- 第6回豊島区特別支援教育検討委員会（最終回）：令和4年3月上旬予定
- 3月定例教育委員会（計画決定）：令和4年3月15日（火）

教育委員会として、計画を3月末までに決定し、冊子として区立幼稚園・小学校・中学校、関係諸機関等に配布する予定である。

また、配布にとどまらず、令和4年度当初の校園長研修をはじめとする指導課主催の研修で周知を図るとともに、関係各課、豊島区社会福祉協議会にも情報を共有し、計画の達成の見取りを行うこととしている。